

学習指導を進めるためには、児童の発育発達段階を考慮しなければなりません。小学校の低・中学年の段階と高学年段階での考え方は下記のようになります。

小学校の低・中学年段階

「体力の向上」を児童に知らせて指導するよりも、むしろ運動そのものに親しませることを大切にし、親しませた結果として「体力の向上」が図られたとする方が効果的である。

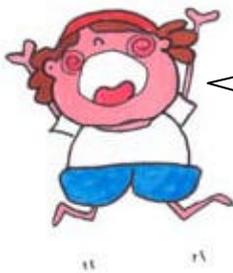
小学校の高学年段階

「体づくり運動」領域を通して、体力を高めるための具体的な運動を学び、自らが積極的に生活の中で活用できるように指導することが必要である。

平成14年度からの完全学校週5日制の実施に伴い、小学校の教科体育の年間総授業時数が105時間から90時間に削減されます。となると、さらに体育の授業だけでは、十分な体力の向上を期待することはできません。

そのためにも、運動を主体的・継続的に自らの生活の中に取り入れ、意欲的に活動できる子どもたちを育成しなければなりません。子どもたちに運動がなぜ必要なのかを理解させ、そして運動の楽しさ、喜び、すばらしさを体得させることが大切になります。

授業時間で学ぶ意欲や関心（やりたいこと）、学び方（こんな方法で解決できる）を重視し、これらを生活の中へ、そしてその取り組みが再び学習（伸び）へとつなげていく力を育てることが必要になります。



ということは...
生活の中の取組を学習に戻していく。すなわち、「学習」「生活」「学習」というサイクルをつくるのがとても大切になるんだね。

なるほど...ね。
ぼくは、とにかく体がかたくて困っているんだ。この間の体育の授業で体を柔らかくする運動をやったよ。その日から妹と風呂上がりにストレッチを毎日やっているんだ。
きっと1年後にはやわらちゃんより柔らかかな体になっていると思うんだ。「継続は力なり」だよな。
ウシシ！がんばるぞ！

